

グアテマラ内政・外交（2011年7月）

平成23年8月
在グアテマラ日本国大使館

1. 概要

内政面では、本年の大統領選挙への立候補資格が問題視されている主要候補の内、与党国民希望党(UNE)・国民大連合(GANA)擁立のサンドラ・トーレス元大統領夫人については、4日、最高選挙裁判所(TSE)が立候補資格を認めないとする判決を下し、30日には最高裁判所も同様の判決を下した。これに対し、同候補陣営は右判決を不服とし憲法裁判所に控訴した。6日、最高選挙裁判所(TSE)は、野党「ビジョンと原則」党(VIVA)のカバジェーロス党首についても立候補資格を認めないとする判決を下し、同候補は最高裁判所に対し右見直しを求め控訴した。治安面では、9日早朝、グアテマラ市内の国際空港に向かっていたアルゼンチン歌手ファクンド・カブラル氏が銃撃を受け間もなく死亡した。同氏の当国における不慮の死は、中南米を含む各国の主要アーティストや元首などから弔意が示されるなど強い関心を呼んだ。

外交面では、26日及び27日、コロン大統領がメキシコを公式訪問し、続いて28日、ペルーのウマラ同国新大統領就任式に出席した。

2. 内政

(1) サンドラ・トーレス元大統領夫人の大統領選出馬資格問題

(ア) 4日、最高選挙裁判所(TSE)は、サンドラ・トーレス元大統領夫人の本年大統領選挙への候補者登録に関し、賛成2、反対3(ビジャグラン長官を含む)により立候補資格を認めないとする判決を下した。反対理由としては、立候補資格を満たすための大統領との離婚は便宜上のものに過ぎず、実質的な婚姻関係は継続しているため法の精神に反する脱法行為(fraude de Ley)であるため、法律上立候補に問題があるとの解釈によるもの。5日、サンドラ・トーレス元大統領夫人を擁立する与党国民希望党(UNE)及び国民大連合(GANA)は最高選挙裁判所(TSE)による同判決を不服として最高裁に控訴した。

(イ) 30日、アルチージャ最高裁判所長官は記者会見において、「(与党 UNE 及び GANA が提出していた)本年大統領選出馬のためのサンドラ・トーレス元大統領夫人の保護権(amparo)の申請には正当な理由がないという判決を下し、その結果、右申請のあった憲法上の保護を付与しないこととなった。」旨述べた。アルチージャ長官によると、サンドラ・トーレス元大統領夫人の立候補登録については、同裁判所裁判官12名が反対、1名が賛成の票を投じた。同長官はサンドラ・トーレス元大統領夫人の立候補資格に反対票が投じられた理由として以下3点を挙げた。

(a) サンドラ・トーレス元大統領夫人と現大統領の関係は大統領選への出馬を禁止していると判断される。離婚とは無関係に、出馬禁止理由は大統領任期中続くのであり大統領任期は現在も終了していない。

(b) 最高裁は、各選挙で立候補者資格を評価する権能が付与され選挙事項を与る最高選挙裁判所(TSE)並びにその下部組織である市民登録局による判決を認めた。

(c) 離婚が憲法第 186 条 C 項で規定された禁止事項を回避するためになされた点で実際に脱法行為が認

められ、このため最高裁としては禁止事項回避の意図が明らかであったことから右を脱法行為と判断する。

同日夜の記者会見において、国民希望党(UNE)のファハルド議員(弁護士)は、最高裁の今次判決については8月1日午前までに控訴することができ、右を受け憲法裁判所の判断に委ねることになると述べた。

(2) 野党党首の出馬資格問題

6日、最高選挙裁判所(TSE)は、カバジェーロス「ビジョンと原則」(VIVA)党首の立候補届につき「カバジェロス氏自身が広報媒体で自身が教会を成立することを夢見てその夢が実現したと表明しているように、同氏は(プロテスタントの一派)“El Shaddai”の創設者の一人であり、同教会の主司祭を20年以上務めた後、セシリア夫人に教会を任せるとして聖職から退いた旨発表したが、右は政治的な理由によるものであった。」「以上に鑑み、憲法第186条f項(大統領・副大統領職への禁止条件の内、聖職者への言及部分)において規定された禁止事項及び脱法行為により大統領候補としての立候補届を却下する。」旨発表した。

同日、カバジェーロス VIVA 党首は、「神に仕える人間だという理由だけで苦しめるようなことがあってはならない。また、自分は2006年に聖職者としての立場を離れた。」と述べた。同党は右決定を不服として最高選挙裁判所に対し判断の見直しを要請した。なお、カバジェーロス党首は前回2007年大統領選挙でも政党登録手続きが間に合わず出馬が叶わなかった経緯がある。

(3) 2011年大統領選挙世論調査結果

(ア)12日付シングロ21紙(Vox Latina社に委託し7月1日から8日まで実施)。

「本日大統領選挙があるとしたら誰に投票するか」への回答(カッコ内は前回調査(6月第一週)結果)

- ①ペレス・モリーナ愛国党(PP)前党首:44.2%(41.2%)
- ②サンドラ・トーレス元大統領夫人:13.3%(15.1%)
- ③スーヘル「公約・確信・秩序」運動党(CREO)党首:7.9%(5.1%)
- ④カバジェーロス「ビジョンと原則」党(VIVA)党首:6.3%(3.8%)
- ⑤バルディソン自由民主会派(LIDER)党首:5.0%(2.4%)
- ⑥パトリシア・デ・アルスー「グ」市長夫人(統一会派党(PU)):3.6%(1.3%)
- ⑦エストラーダ国民革新党(UCN)党首:1.3%(1.4%)
- ⑧メンチュウ・ウイナック政治活動(WINAQ)代表:1.0%(0.8%)
- ⑨グティエレス国民進歩党(PAN)党首:0.5%(0.3%)
- ⑩トレビアルテ国家開発行動党(ADN)党首:0.0%(0.3%)
- ⑪投票しない:6.9%(15.0%)
- ⑫無効票:1.9%(4.1%)
- ⑬白票:8.1%(4.3%)

(イ)8月1日付ブレンサ・リブレ紙(Prodatos社に委託し7月22日から26日まで実施)

「本日大統領選挙があるとしたら誰に投票するか」への回答(カッコ内は6月の調査結果)

- ①ペレス・モリーナ愛国党(PP)前党首:37.6%(42.5%)
- ②サンドラ・トーレス元大統領夫人:17.2%(15.1%)
- ③スーヘル「公約・確信・秩序」運動党(CREO)党首:9.0%(7.7%)
- ④バルディソン自由民主会派(LIDER)党首:8.4%(6.1%)

- ⑤カバジェーロス「ビジョンと原則」党(VIVA)党首:4.5%(4.9%)
- ⑥エストラーダ国民革新党(UCN)党首:3.8%(2.6%)
- ⑦メンチュウ・ウィナック政治活動(WINAQ)代表:2.3%(1.7%)
- ⑧パトリシア・アルスー現「グ」市長夫人(統一会派党(PU)):2.2%(2.3%)
- ⑨グティエレス国民進歩党(PAN)党首:1.4%(0.8%)
- ⑩ジャマテイ社会行動党(CASA)党首:0.7%()
- ⑪トレビアルテ国家開発行動党(ADN)党首:0.2%(0.3%)
- ⑫白・無効票:12.7%(16.0%)

「サントラ・トレス元大統領夫人及びカバジェーロス VIVA 党首が出馬できない場合誰に投票するか。」

- ①ペレス・モリーナ愛国党(PP)前党首:41.2%
- ②バルディソン自由民主会派(LIDER)党首:13.6%
- ③スーヘル「公約・確信・秩序」運動党(CREO)党首:11.2%
- ④エストラーダ国民革新党(UCN)党首:6.2%
- ⑤パトリシア・アルスー現「グ」市長夫人(統一会派党(PU)):3.7%
- ⑥メンチュウ・ウィナック政治活動(WINAQ)代表:3.2%
- ⑦グティエレス国民進歩党(PAN)党首:1.7%
- ⑧ジャマテイ社会行動党(CASA)党首:1.2%
- ⑨トレビアルテ国家開発行動党(ADN)党首:0.3%
- ⑩白・無効票:17.7%

3. 治安情勢関連等

(1) アルゼンチン歌手殺害事件の発生

(ア)9日早朝、当地でのコンサートを前日に終えグアテマラ市内の国際空港に向かう途中のアルゼンチンの大物シンガー・ソング・ライター・ファクンド・カブラル氏(74歳)が、乗車していた車内へ向けられた銃撃を受け間もなく死亡した。同日午前5時5分頃、宿泊していたグアテマラ市内のホテルを出発したファクンド・カブラル氏一行(カブラル氏はニカラグア人興行主のファリーニャス氏運転車両の助手席に乗車し、ボディガードが乗車する警護車1台が追走)は、次のコンサートが予定されていたニカラグアへ向かうために市内のアウロラ国際空港へ向かう途中、車内1台に行く手を遮られると共に横付けにされた車内から銃撃を受けた。運転していたファリーニャス氏も胸部、腹部等に被弾したものの、グアテマラ市内の病院に搬送され手当を受けた。

(イ)中南米地域を中心に高い人気を誇るファラブンド・カブラル氏の当国における不慮の死により、コロン大統領は当国が同日から三日間の喪に服すと表明したほか、中南米を含む各国の主要アーティストや元首などからも弔意が示されるなど強い関心呼んだ。なお、コロン大統領の要請を受けてメキシコのカルデロン大統領はアルゼンチンへの遺体搬送のため政府専用機を派遣した。

(ウ)12日、パス当国検事総長及びメノカル内務大臣は本事件容疑者5名を特定し、内2名を同日朝逮捕し

た旨発表した。パス検事総長によると、逮捕されたバルガス容疑者が殺人請負グループを雇いニカラグア人のファリーニャス氏の殺害を命じ、同様に逮捕されたストケス容疑者は雇われた殺人請負グループの一人と見られている。

(エ)31日、パス検事総長は、同日午前11時過ぎ、本事件でファクンド・カブラル氏に発砲した容疑で更にエルナンデス容疑者(退役軍人)を逮捕した旨発表した。

(2)市長候補者殺害事件容疑者の逮捕

(ア)5日、治安当局は、グアテマラ県サン・ホセ・ピヌーラ市の市長候補者2名及び関係者殺害事件(6月11日及び16日発生)の首謀及び実行犯として、同市長選に立候補しており自らも武装グループの襲撃を受けた(6月18日発生)としていた自由民主会派(LIDER)所属のルイス・マロキン容疑者他2名を逮捕した。パス検事総長によると、2件の殺害事件では各候補の政策綱領について聞きたいとする接触があり具体的な場所に呼び出されるなど、被害者に対する襲撃が周到に準備されていた。一方、幹線道路移動中に襲撃を受けたマロキン容疑者の事件では、分析された弾道から、同容疑者が乗車していた乗用車のフロント・ガラス部分が被弾した計9発の銃弾の内、3発は助手席に向けられていた。同容疑者は事件発生当時助手席に座っていたと証言しており、防弾チョッキを着用していたにしても、首部分の被弾は免れなかったと判断されたが、マロキン容疑者の被害はかすり傷に留まっていた。

(イ)同日、バルディソンLIDER党首は、「マロキン(ママ)は、サン・ホセ・ピヌーラ市長選に出馬する予定であったが、同出馬を取り消した。」旨発表した。

4. 外交

(1)コロン大統領のメキシコ訪問

26日及び27日、コロン大統領はメキシコを国賓として公式訪問し(これまでに10数回メキシコを訪問しているが、国賓としての訪問は初めて)、27日、カルデロン同国大統領との会談、同国連邦議会常設委員会への出席等を行った。両国大統領は、両国国境インフラの改善、治安協力、国際犯罪組織対策、移民の安全保護、経済統合及び地域開発等につき合意した。連邦議会常設委員会本会議においてコロン大統領は、域内格差を是正し、移民流出や麻薬取引を抑えるため、メキシコ国境地域において衡平な発展が達成されるよう(協力を)要請した。メキシコの公式訪問を終えたコロン大統領は、次の訪問国であるペルーへ向かった。

(2)コロン大統領のペルー大統領就任式出席

28日、コロン大統領はペルーで行われたウマラ同国新大統領就任式に出席した。